



志望理由書は「自分に近い1本」を見つけて読むと、書き出しが決まりやすくなります。学部を問わず使える基本形、大学向けの基本形、800字の基本形、保育士を目指す人向けの4本を収録しました。最後に、学部が決まっていない人向けのアレンジのコツと、書き換えるときに変える場所をまとめています。

学部を問わない基本の例文(600字)

私は、必要な情報が届かない人を減らす仕組みを考えたいと思い、貴学部への進学を志望します。

中学生のとき、住んでいる地域の避難訓練に参加した際、高齢の住民や日本語を母語としない住民が、避難情報をうまく受け取れていない場面を見ました。避難所の掲示は日本語だけで書かれており、スマートフォンを持たない人には情報が届いていませんでした。この経験から、防災は「情報をどう届けるか」という課題でもあると考えるようになりました。

高校の探究学習では、自治体が公開している避難所運営マニュアルと、実際に住民から聞いた声を比較する調査を行いました。マニュアル上は多言語対応と書かれていても、更新が追いついていない箇所があることが分かりました。制度と現場の間にずれがあることを、自分の目で確かめられたことが大きな学びでした。

貴学部では、地域社会の仕組みを学ぶ授業に加えて、現場の声を集めるフィールドワークの機会があると伺っています。制度を作る立場と、それを受け取る立場の両方から考えられる環境で、情報が届きにくい人に配慮した仕組みづくりを学びたいと考えています。多言語対応以外にも、高齢者や障がいのある人など、情報が届きにくくなる要因はほかにもあると考えており、幅広い立場からこの課題を捉え直したいと考えています。

将来は、行政や地域団体と協力しながら、必要な情報が誰にでも届く地域づくりに関わりたいと考えています。高校での調査は一つの地域の一場面にすぎないため、大学では対象とする地域や年代を広げながら理解を深めたいと考えています。

この例文のどこが効いているか

- ・ 出来事の説明で終わらず「防災は情報をどう届けるかという課題」と自分なりの言い換えをしている点
- ・ 探究学習での調査を、感想ではなく「制度と現場のずれを確認した」という発見として書いている点
- ・ 学部名や専門用語を使わずに書かれているため、地域社会・情報・福祉・工学など複数の学部に流用しやすい点

大学向け基本例文(500字)

私は、人がどのように情報をもとに意思決定を行うかを学問として学びたいと考え、貴学への進学を志望します。

高校の授業でSNS上の情報が人の判断に与える影響を調べる課題に取り組んだ際、同じニュースでも見出しの書き方によって受け取られ方が変わることを知りました。感覚的に「印象が変わる」と気づくことと、それがなぜ起きるのかを理論として説明できることの間には大きな差があると感じ、意思決定の仕組みを体系的に学びたいと考えようになりました。

貴学の授業一覧を確認したところ、1・2年次に基礎理論を学んだうえで、3年次からゼミに所属して各自の関心に沿った研究を進める流れになっていると分かりました。基礎を固めてから専門を深める順序が、自分の学び方に合っていると感じています。加えて、他学部の科目も一定数履修できる制度があると知り、意思決定という現象を一つの学問領域だけでなく、複数の視点から捉え直せる点にも魅力を感じています。

入学後は、基礎理論をひとつとおり学んだうえで、情報の受け取り方が世代によってどう異なるかを卒業研究のテーマとして掘り下げたいと考えています。高校の課題では自分の身の回りの反応しか調べられなかったため、大学では調査の対象を広げ、より多くの人の判断のしくみを扱えるようにしたいと考えています。

この例文のどこが効いているか

- ・「気づいたこと」と「理論として説明できること」を分けて書き、大学で学問的に学ぶ理由を明確にしている点
- ・ 大学案内やシラバスで確認できる学びの順序(基礎→ゼミ→研究)に触れ、その大学を選ぶ理由を具体化している点
- ・ 卒業研究のテーマ候補まで書き、入学後の学びを短期で終わらせない姿勢を示している点

800字の基本例文(800字)

私は、食品ロスを減らす仕組みを、データを使って考えられる人になりたいと思い、貴学部への進学を志望します。きっかけは、高校の探究学習で地域のスーパーマーケットに協力してもらい、廃棄される食品の量を記録した調査でした。天候や曜日によって廃棄量が大きく変わることは知っていましたが、実際に数字として並べてみると、自分の予想よりも仕入れ量と天気予報のずれが廃棄量に強く関係していることが分かりました。感覚で「もったいない」と思うことと、原因を数字で説明できることの間には大きな差があり、この差を埋める力を身につけたいと考ええるようになりました。

調査の過程では、店舗の担当者から「発注は経験と勘に頼っている部分が大きい」という話を聞く機会もありました。長年の経験は大切にしつつ、そこにデータを組み合わせることで、廃棄量と欠品の両方を減らせるのではないかと考えています。ただし、この調査だけでは仕入れ側の事情まで十分に把握できておらず、まだ確かめきれない点も残っています。

貴学部では、統計学の基礎科目に加えて、企業と連携した実践型の演習があると伺っています。数字を扱う力と、現場の事情をふまえて仕組みを提案する力の両方を、授業と演習を通じて身につけたいと考えています。特に、実データを使って課題を分析する演習は、高校での調査を一步先に進める機会になると考えています。

将来は、食品に限らず、経験や勘に頼っている現場の意思決定に、データという別の視点を持ち込める人になりたいと考えています。すぐに答えが出る分野ではないと感じていますが、大学の4年間で基礎を固め、現場の声とデータの両方を扱える力を育てていきたいと考えています。高校での調査は1店舗のみを対象にしたものであり、地域や業態が変わればまた違う要因が関わってくるはずです。在学中は対象を広げながら、この課題への理解を少しずつ更新していきたいと考えています。

この例文のどこが効いているか

- ・ 調査で分かったことと、まだ分からないこと(仕入れ側の事情)を両方書き、誠実さと考察の深さを示している点
- ・ 「経験と勘」対「データ」という対立ではなく、両方を組み合わせる方向で将来像を書いている点
- ・ 大学の授業・演習を、高校の探究学習の延長線上に位置づけて書いているため、志望理由に一貫性がある点

保育士を目指す人の例文(600字)

私は、子どもの「できた」という気持ちを引き出す関わり方を学びたいと考え、貴校への進学を志望します。

高校2年生のとき、近くの保育園で職場体験に参加しました。担当したのは3歳児のクラスで、はじめは自分から話しかけてもうまく打ち解けられませんでした。ですが、保育士の先生が子どもの目線までしゃがんで、子どものペースに合わせて言葉を待つ様子を見て、関わり方を真似してみたところ、少しずつ子どもの方から話しかけてくれるようになりました。この経験から、子どもと関わる仕事には、待つことも含めた技術が必要だと知りました。

職場体験のあと、保育士に必要な知識について自分でも調べてみましたが、発達の段階ごとに関わり方が変わることや、保護者への対応も仕事に含まれることなど、知らなかったことが多くありました。まだ理解できていない部分が大きいと感じており、専門的に学ぶ必要があると考えています。

貴校では、実習の時間が多く確保されており、現場での経験を積みながら学べる点に魅力を感じています。授業で学んだ知識を、実習ですぐに確かめられる環境で学びたいと考えています。また、年齢の異なるクラスでの実習も経験できると知り、3歳児以外の年齢の子どもとの関わり方も学びたいと考えるようになりました。

将来は、子ども一人ひとりのペースを大切にしながら関われる保育士になりたいと考えています。職場体験で見えたのは3歳児クラスの一場面にすぎないため、貴校での学びを通じて、年齢や発達の段階ごとに異なる関わり方への理解を広げていきたいと考えています。

この例文のどこが効いているか

- ・「打ち解けられなかった」という失敗をそのまま書き、そこから何を学んだかにつなげている点
- ・ 職場体験のあとに自分で調べ直し、「知らなかったこと」を具体的に書いている点
- ・ 貴校を選んだ理由を、実習時間という確認できる情報に結びつけている点

学部未定の人向けアレンジのコツ

学部が決まっていない場合、無理に「〇〇学部だから」という書き方に寄せる必要はありません。以下のように調整すると、学部を問わない基本の例文を流用しやすくなります。

- ・ 「貴学部では」という一文を「貴学のカリキュラムでは」など、学部名を含まない表現に置き換える
- ・ 学部名の代わりに「関心のあるテーマを幅広く学べる環境」など、自分が惹かれている学び方の特徴を書く
- ・ 志望理由の中心を「学部で学ぶ内容」ではなく「解きたい問い」に置く。問いさえ明確なら、学部が変わっても文章の骨格は流用できる
- ・ オープンキャンパスや学部案内で気になった科目名が複数ある場合は、無理に1つに絞らず「〇〇と〇〇のどちらにもつながる関心がある」と書く選択肢もある
- ・ 最終的に学部を決めたあとは、その学部名・科目名に合わせて該当箇所だけを書き換える

書き換えるときに変える場所

例文をそのまま提出せず、以下の部分を自分の状況に置き換えて使ってください。

- ・ **きっかけとなる出来事**: 例文の避難訓練・SNS課題・食品ロス調査・職場体験の部分は、自分が実際に見聞きしたことに置き換える
- ・ **調べたこと・分かったこと**: 例文中の調査結果や気づきは、自分が探究学習や体験の中で実際に確認した内容に置き換える
- ・ **大学・学校名と学部・学科名**: 「貴学部」「貴学」「貴校」の部分は、実際に出願する大学・学校の名称と学部・学科名に置き換える

- **学びの内容:**授業名やゼミ、実習の説明は、志望先の案内やシラバスで確認できる内容に置き換える
- **将来像:**将来やりたいことの部分は、例文のまま使わず、自分がその大学・学校で学んだ先に考えていることを書く